

在来軸組工法

枠組壁工法

Joint System of Earthquake Resistant Column

BASE- SETOR

Plan casebook

A large opening and colonnade, and
large scale indoor space.

That is the architectural hardware
whose design freedom leaps ahead.

We want to deliver its ease of
use to all architects.



Expand your Freedom.

ベースセッターが拡げる、 木造建築の可能性。

妥協することを許されない耐震性能。

優れたデザインも安全基準をクリアしなければ、
妥協することを余儀なくされます。

ベースセッターは、わずかなスペースで
優れた耐震性を実現。

あきらめていた大空間や広い開口部を可能にし、
デザインの自由度を格段に高めます。

構造上の制約が多い木造建築でも、
イメージを具現化した豊かな空間を創造します。

自由度の高い設計を 在来軸組工法でも、 桝組壁工法でも。

ベースセッターは、工法を選ばず
同一製品で自由度の高い設計が可能です。

450mm幅の狭小耐力壁が、
プランニングの幅を広げます。

※本プラン集は、在来軸組工法をベースに制作しています。
※在来軸組工法の「BS耐力壁」は、桝組壁工法では「BS耐力壁柱」
と読み替えてください。

主な設計ルールと施工例

在来軸組工法 20ページ

桝組壁工法 22ページ



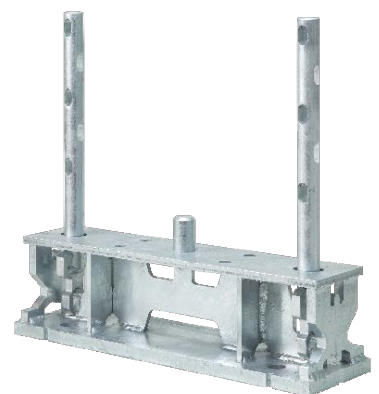


ベースセッターが実現する3つの自由
Three freedoms that BASE-SETOR realizes.

1. 開放性の自由
Freedom of openness.

3. スパン、高さの自由
Freedom of span and height.

2. 配置の自由 (独立配置)
Freedom of layout.



What is BASE-SETOR?

ベースセッターで 柱を耐力壁にする

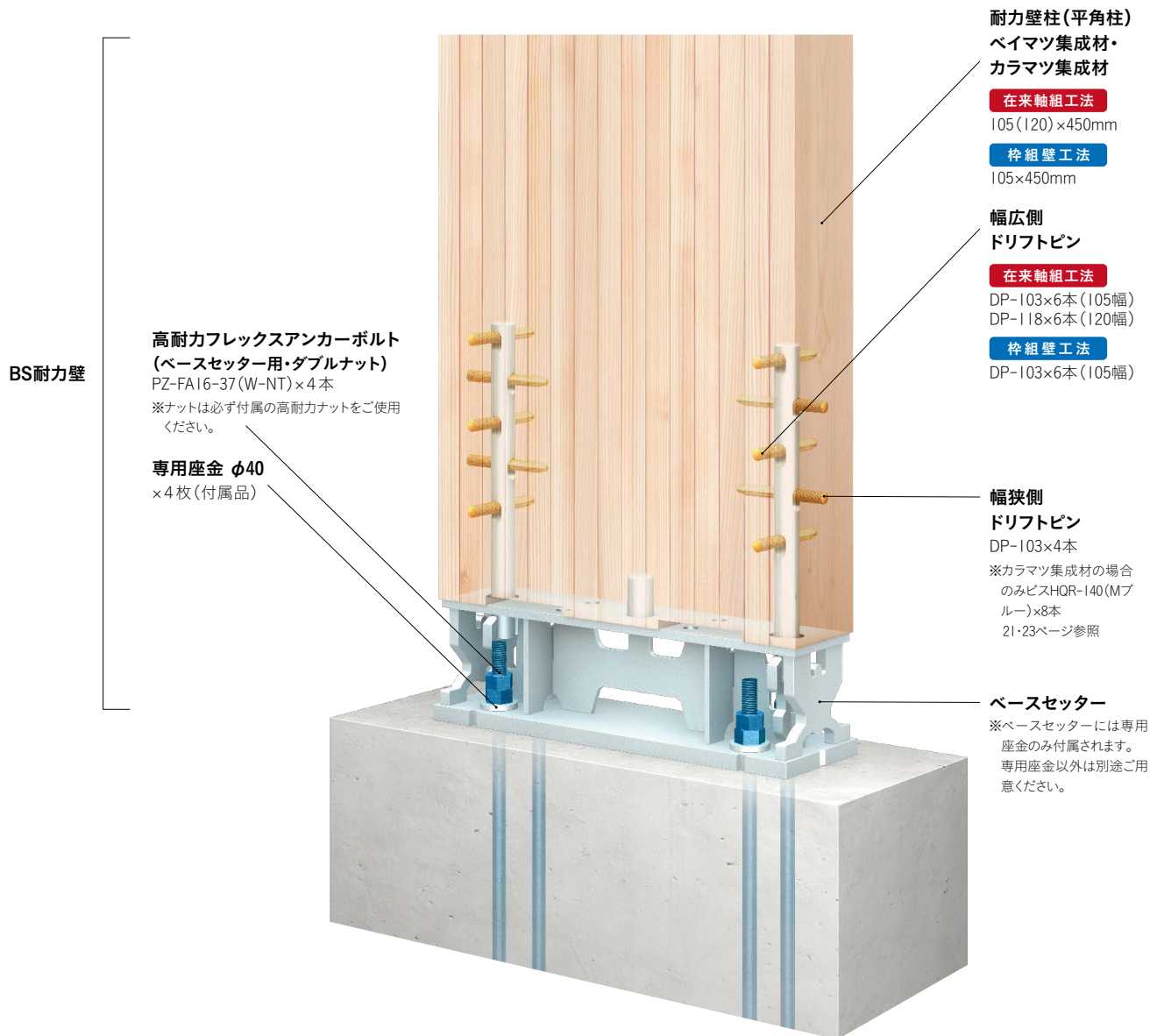


ベースセッター

基礎と450mm幅の耐力壁柱(平角柱)を緊結する柱脚金物

BS耐力壁

ベースセッターを使用したI階専用狭小耐力壁



ベースセッターは、高強度の耐力壁を狭小幅で可能にした柱脚金物です。基礎と450mm幅の耐力壁柱(平角柱)が一体となったBS耐力壁は、高い水平抵抗力を発揮します。また、門型フレームと異なり、耐力壁柱1本だけで独立配置が可能のため様々な工法に対応でき、設計の自由度が飛躍的に向上します。狭小地での開口の確保や圧迫感が少なく見通しのきくりビング・ダイニング・ゆとりあるガレージなど、耐震性を確保しながら開放的な空間を実現し、快適な住まいづくりの可能性を拓けます。

Three freedoms that BASE-SETOR realizes.

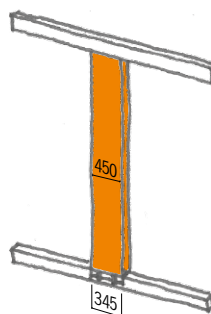
ベースセッターが 実現する3つの自由

1. 開放性の自由

BS耐力壁は壁長が短く、開放的な空間設計が可能です。芯-芯345mm（105角柱換算）のスペースで壁長910mmの壁倍率5倍在来耐力壁とほぼ同等の耐震性を確保できます。狭小スペースで高い耐震性能を発揮できるため、開放性の高い平面計画と耐震性能の両立が可能となり、平面計画の自由度が高まります。

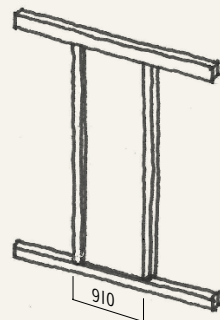
※枠組壁工法の芯-芯寸法は23ページ参照

BS耐力壁は、壁長450mm
（105角柱換算で芯-芯345mm）



壁倍率5倍の
在来耐力壁と
同程度の耐力

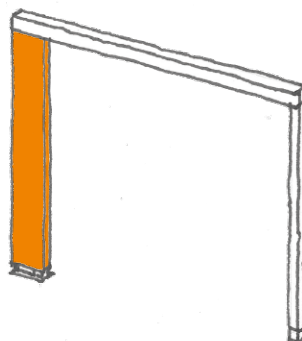
在来耐力壁は、壁長910mm



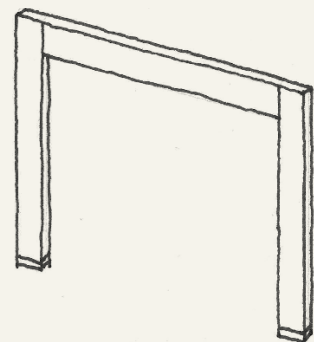
2. 配置の自由(独立配置)

狭小地などで耐力壁不足を解消するために門型フレームを使用すると、両側に2本の平角柱が必要となりプランの実現が難しいことがあります。BS耐力壁は1本の独立した「耐力壁柱」であるため、対の柱の位置を気にすることなく、自由に配置することができ、様々な平面計画の中での活用が広がります。

BS耐力壁は、耐力壁柱が1本



門型フレームは、
平角柱2本と梁1本によるコの字型

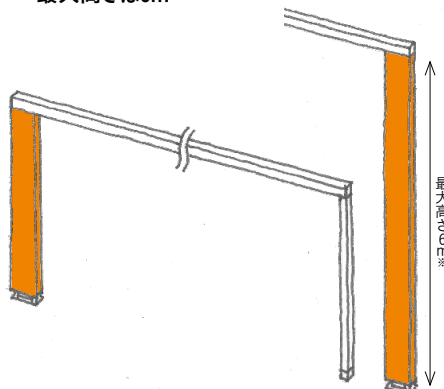


3. スパン、高さの自由

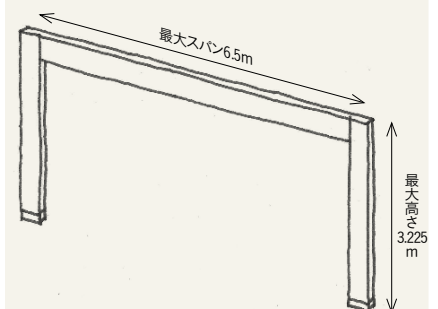
一般的に門型フレームはスパンと高さの制約があり、プレセッター門型フレームの場合は、最大スパン6.5m（モジュール芯）、最大高さ3.225mです。BS耐力壁は、スパンに制約が少なく高さも柱長6m[※]まで対応可能ですので、階高の高い店舗や保育園にも適用可能です。開放性が高く、大きい空間の建物でも耐震性能の確保を可能にするBS耐力壁は、木造の自由度をさらに広げます。

※カラマツ集成材の場合、最大高さ5.4m。

BS耐力壁は、スパンの制約が少なく、
最大高さは6m[※]



プレセッター門型フレームは、
最大スパンは6.5m、最大高さは3.225m



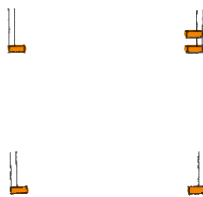
Eight things you can do that BASE-SETOR made possible.

ベースセッターが可能にした、 8つのできること

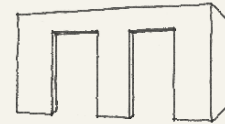
MERIT 1

大きな開口

狭小耐力壁のため
開口部を
大きくとれます。



BS耐力壁

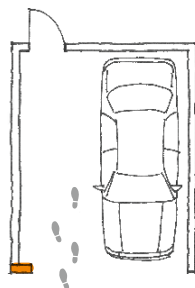


在来耐力壁

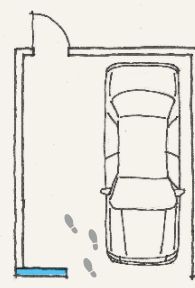
MERIT 2

狭小間口も 余裕の出入り

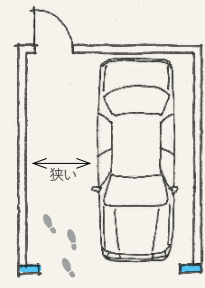
狭小間口でも、
車と人のアプローチが
重ならずラクラク
出入りができます。



BS耐力壁



在来耐力壁

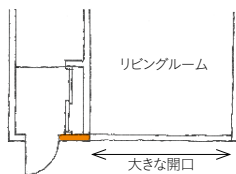


門型フレーム

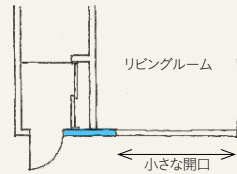
MERIT 3

収納小壁に 有効利用

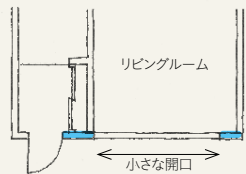
収納の小壁を
BS耐力壁にすることで、
リビングルームの開口が
大きくとれます。



BS耐力壁



在来耐力壁

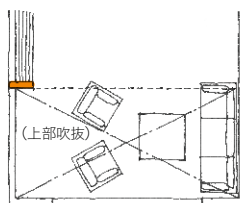


門型フレーム

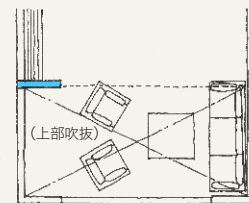
MERIT 4

開放的な吹抜け

吹抜けの端部に
耐力壁が
必要な場合でも、
邪魔になりません。



BS耐力壁

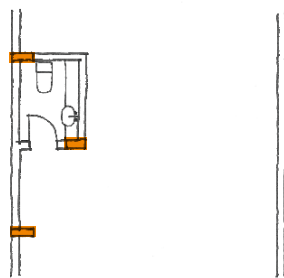


在来耐力壁

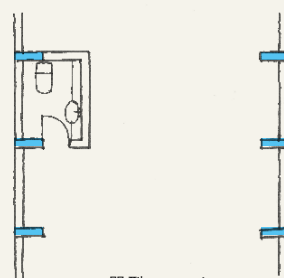
MERIT 5

自由に配置

門型フレームのように
平角柱の位置が制限されず、
都合のよいところに
配置できます。



BS耐力壁

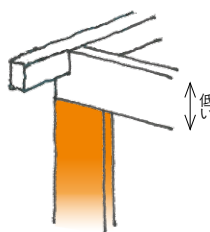


門型フレーム

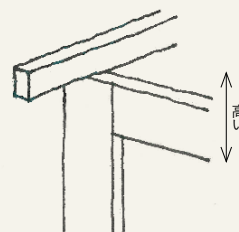
MERIT 6

天井懐の低い 跳ねだしバルコニー

跳ねだしバルコニーの
天井懐を低く抑えることで
建物の高さを低くすることができ、
斜線制限の回避に有効です。



BS耐力壁

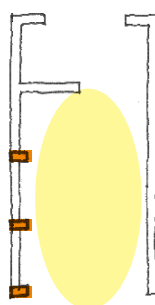


門型フレーム

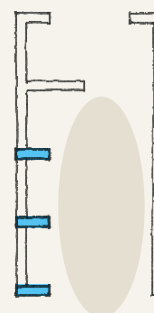
MERIT 7

空間の邪魔をしない

片側に寄せて配置する場合、
在来耐力壁より
スッキリとした広い
空間にできます。



BS耐力壁

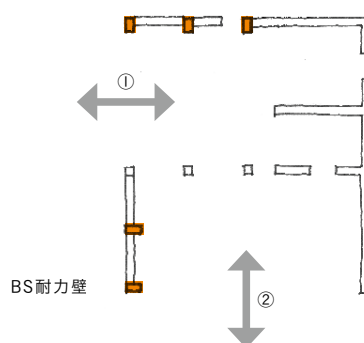


在来耐力壁

MERIT 8

2方向に大開口

BS耐力壁の
自由な配置により、
2方向に大きな開口を
設けることができます。



BS耐力壁

ベースセッター

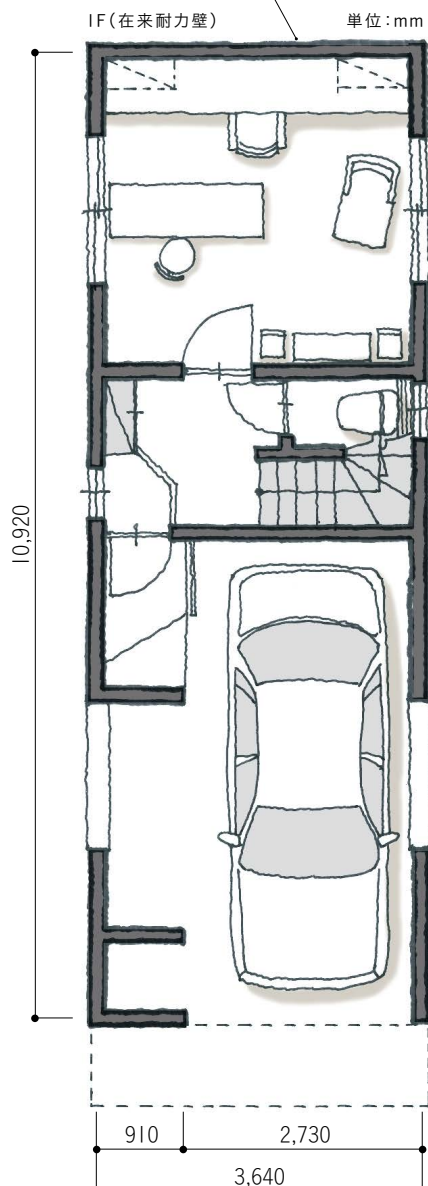
6つのプランニング事例

- CASE 1 狭小地3階建て(耐震等級3)
- CASE 2 賃貸ガレージハウス
- CASE 3 大開口&大吹抜けのある家
- CASE 4 大きなぬれ縁のある家
- CASE 5 店舗
- CASE 6 保育園

車庫の入口に門型フレームを採用する際、2階バルコニー部の持出し梁を門型フレーム上に載せるため、天井懐が大きくなるのが一般的。しかしBS耐力壁を採用すれば梁を欠込むことで、天井懐が低く、建物全体の高さを抑えることができ、斜線制限対策としても有効。

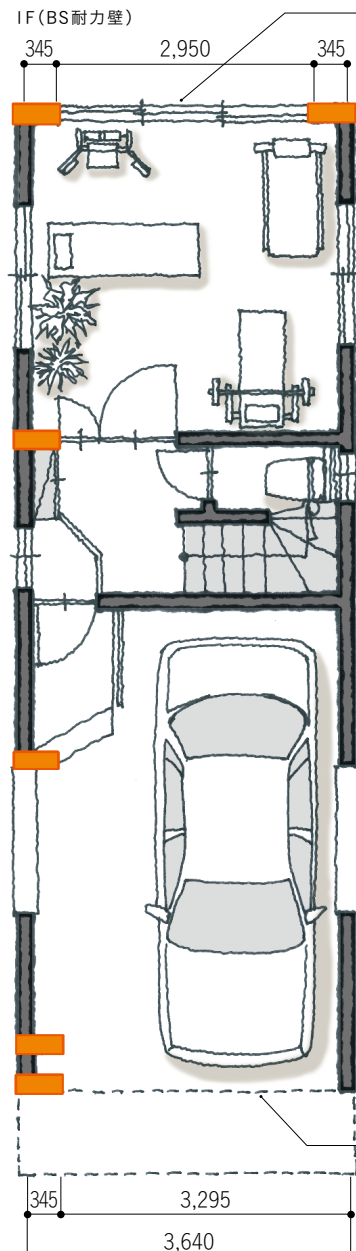
在来耐力壁による プランニング(耐震等級3)

壁が多く、採光を必要としないオーディオルームやホビールームにする。



BS耐力壁による プランニング(耐震等級3)

大きな開口部で明るいトレーニングルームにすることができる。



基礎モデル例
24ページ参照

広い間口で、車の出し入れや玄関へのアプローチが快適。

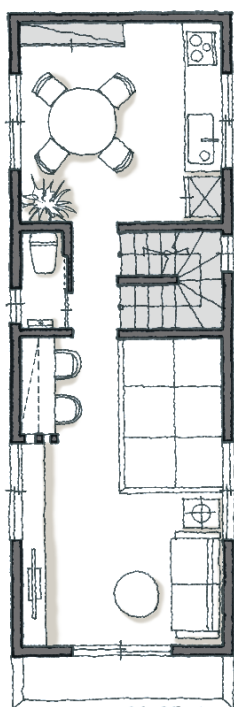


BASE-SETOR
planning
CASE

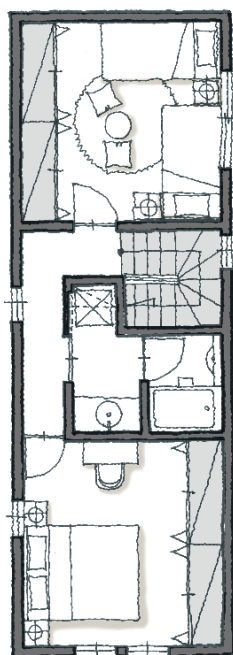
1

狭小地3階建て (耐震等級3)

2Fプラン(共通)



3Fプラン(共通)

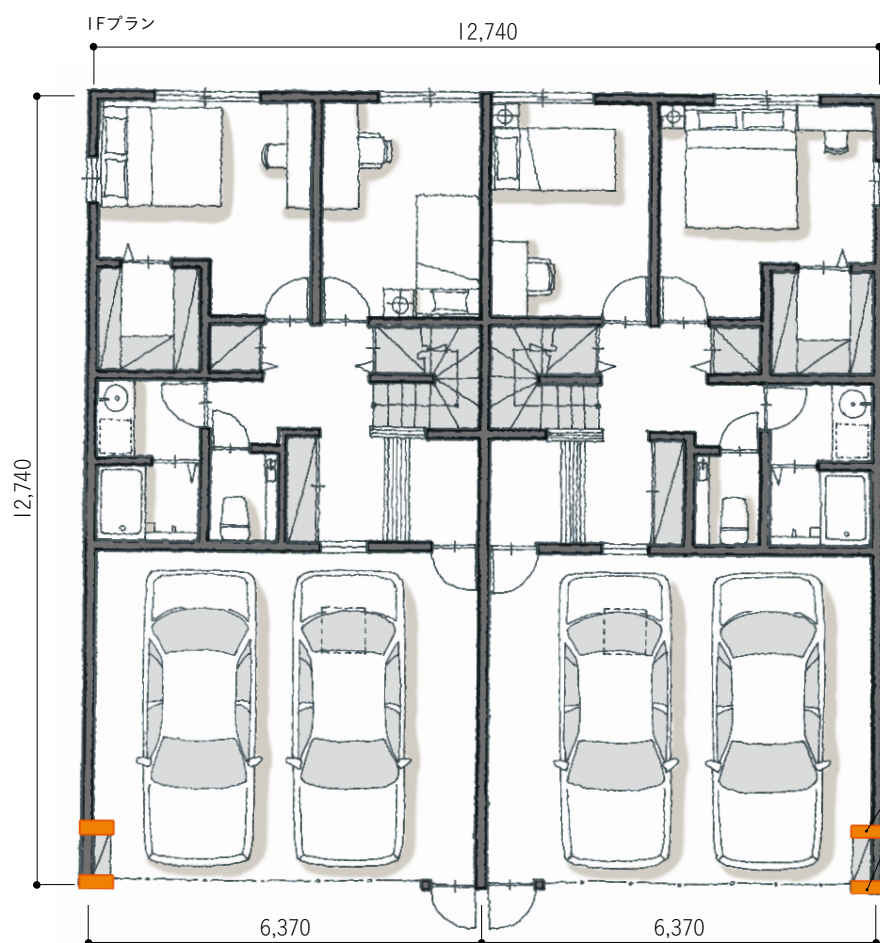
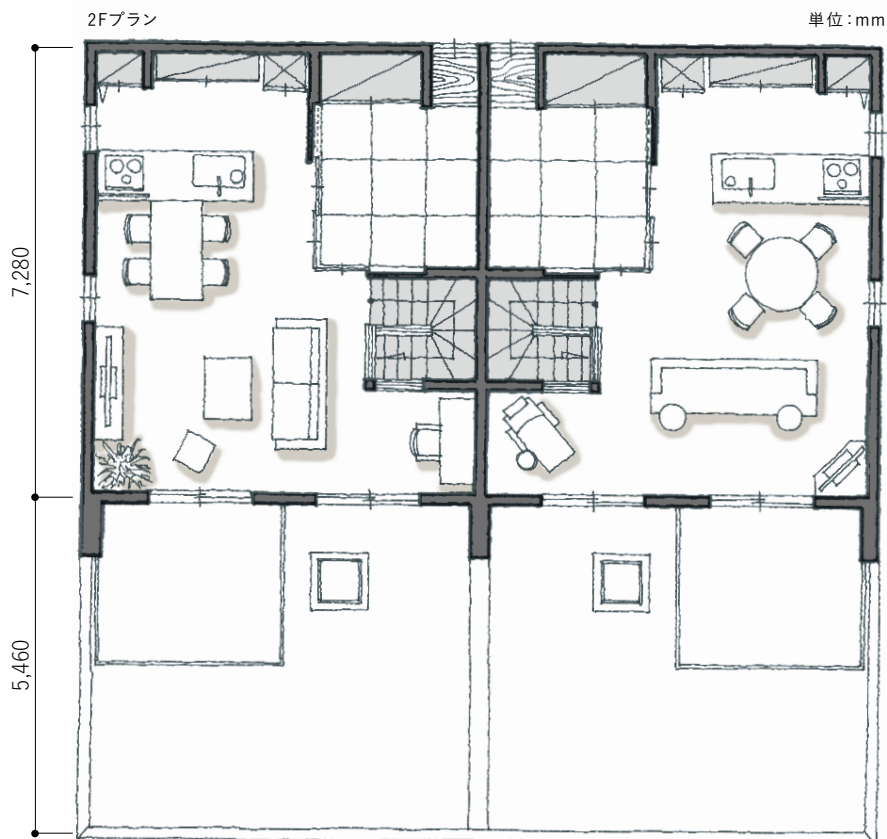


3階建て狭小住宅で耐震性能を耐震等級3に上げると、1階は壁の多いプランになりがちです。しかし少ないスペースで耐震性能を担保するBS耐力壁を活用することで、プランの自由度を格段に高めることができます。たとえば1階の採光性。在来耐力壁は壁が多いため、狭小住宅では1階をオーディオルームやホビールームなど、積極的な採光を必要としない空間として設計されることが多いものです。しかし、BS耐力壁を使用すれば開口部を大きく取ることができるため、採光に優れた明るい居室などにすることができます。

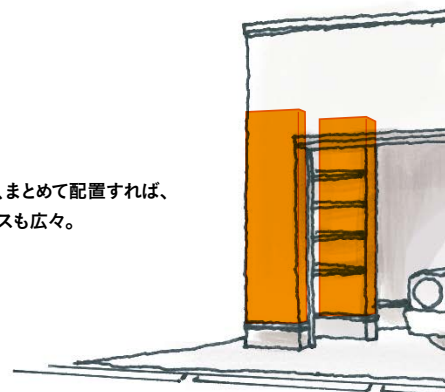
また、間口が狭い狭小地の設計でも、車庫の入口に十分な快適性・安全性を確保することができます。在来耐力壁は910mm程度の壁長が必要ですが、BS耐力壁なら壁長を450mm(105角柱換算で芯-芯345mm)まで抑えることができ、安全な車の出し入れや玄関への快適なアプローチを実現します。

賃貸ガレージハウス

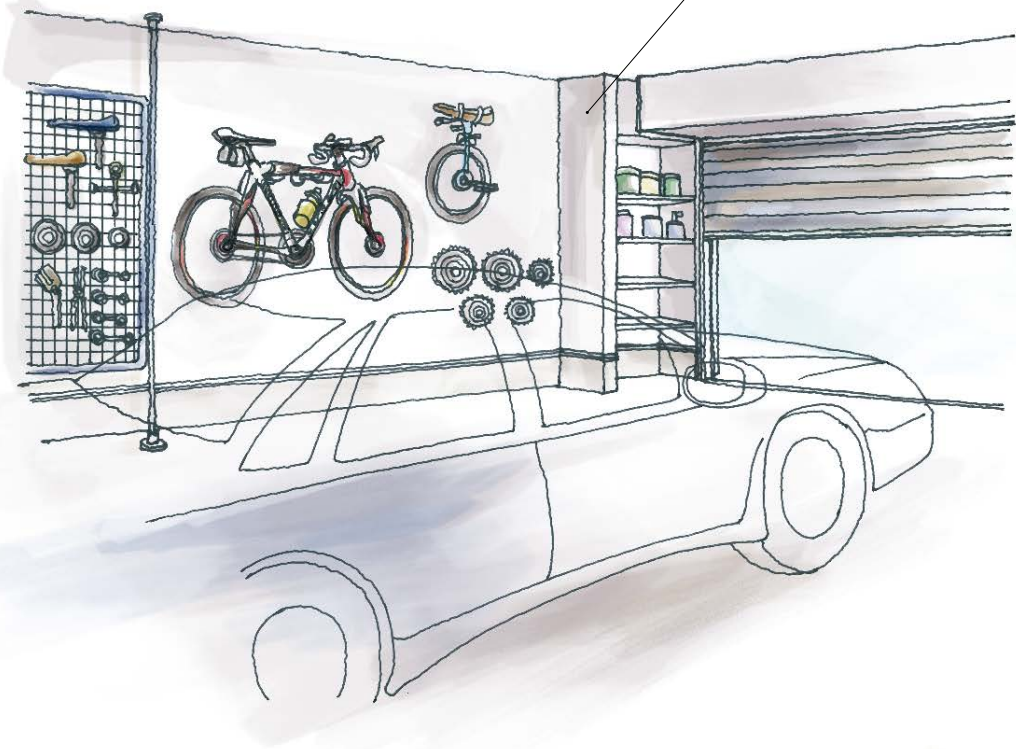
モーターファンの間で人気が高まっているガレージハウス。BS耐力壁を採用することで、車庫の開口を大きくとれるため、安全に入出庫可能な設計にすることができるだけでなく、車2台が余裕をもって納まるプランも容易に実現できます。また、BS耐力壁をまとめて並列配置することで、広い車庫スペースを確保することも可能です。



分散させず、まとめて配置すれば、
車庫スペースも広々。



壁と壁との間をカー用品や工具類を
保管する収納や棚に利用。
BS耐力壁の壁長は450mmのため、
ジャストサイズの奥行きを確保できる。



スムーズな出入庫と
高いデザイン性を実現。

3

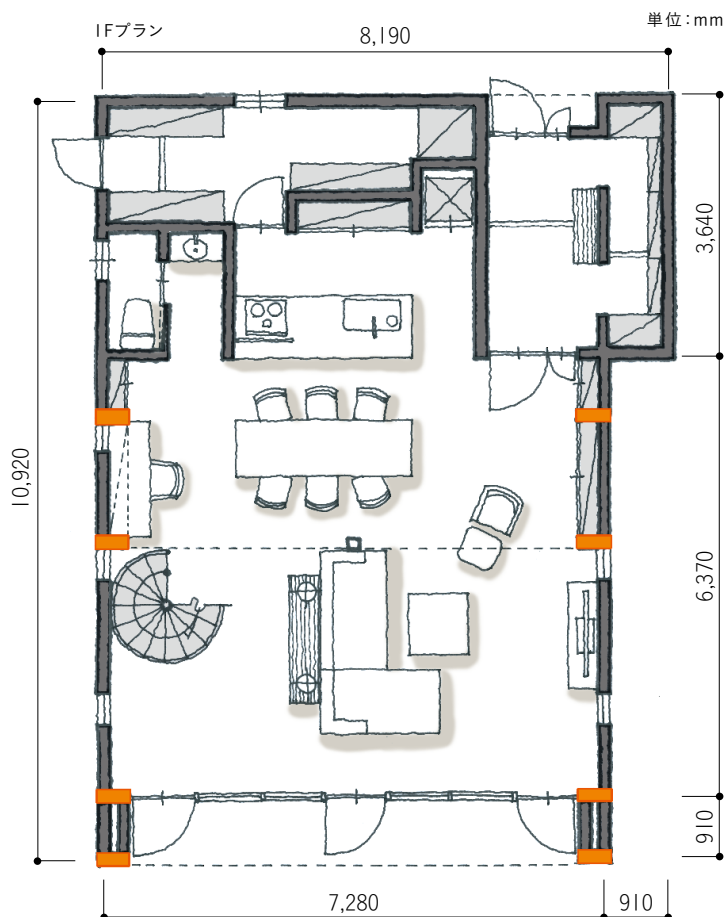
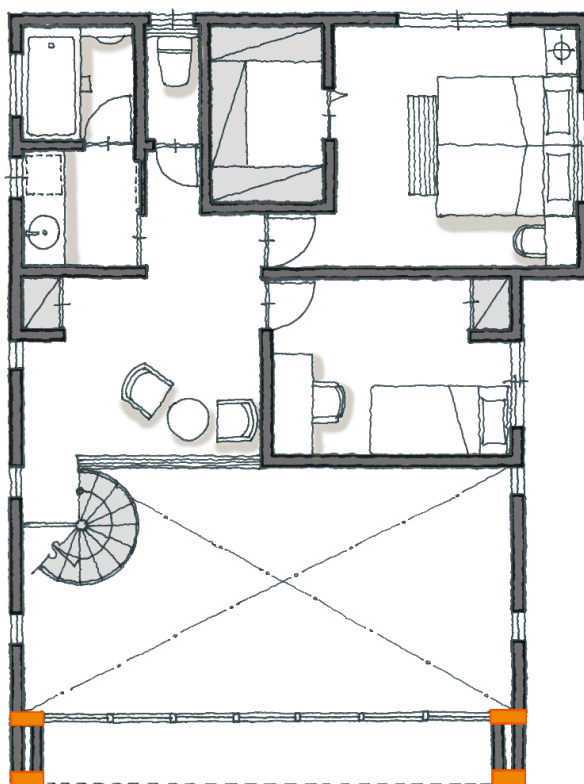
大開口& 大吹抜けのある家

高さ6m^{*}まで施工可能なBS耐力壁は、吹抜けがある大空間のプランにも効果を発揮します。在来耐力壁では途中で胴差しが入るのが一般的ですが、BS耐力壁を用いることで胴差しのない大きな開口部を設置可能。木造でありながら、S造のような洗練された空間を実現します。

また、1階の吹抜け端部に耐力壁が必要なプランでは、在来耐力壁の場合、壁長910mmが必要であるのに対し、BS耐力壁は壁長450mmで必要条件を満たすため、リビング・ダイニングの開放感を損うことなく、吹抜けとの連続性を確保できます。

※カラマツ集成材の場合、最大高さ5.4m。

2Fプラン

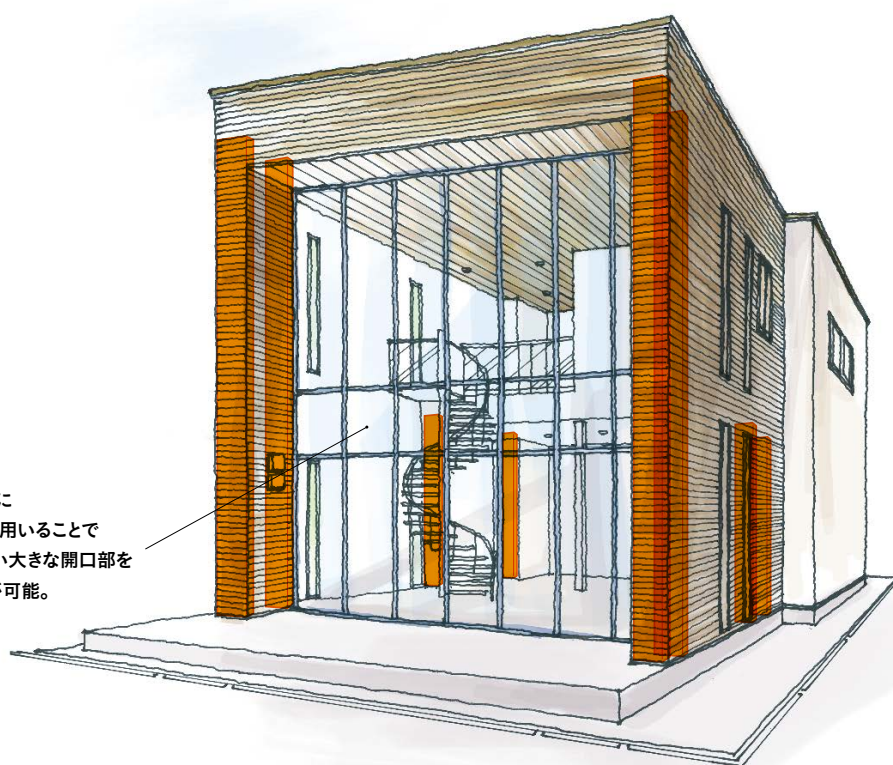




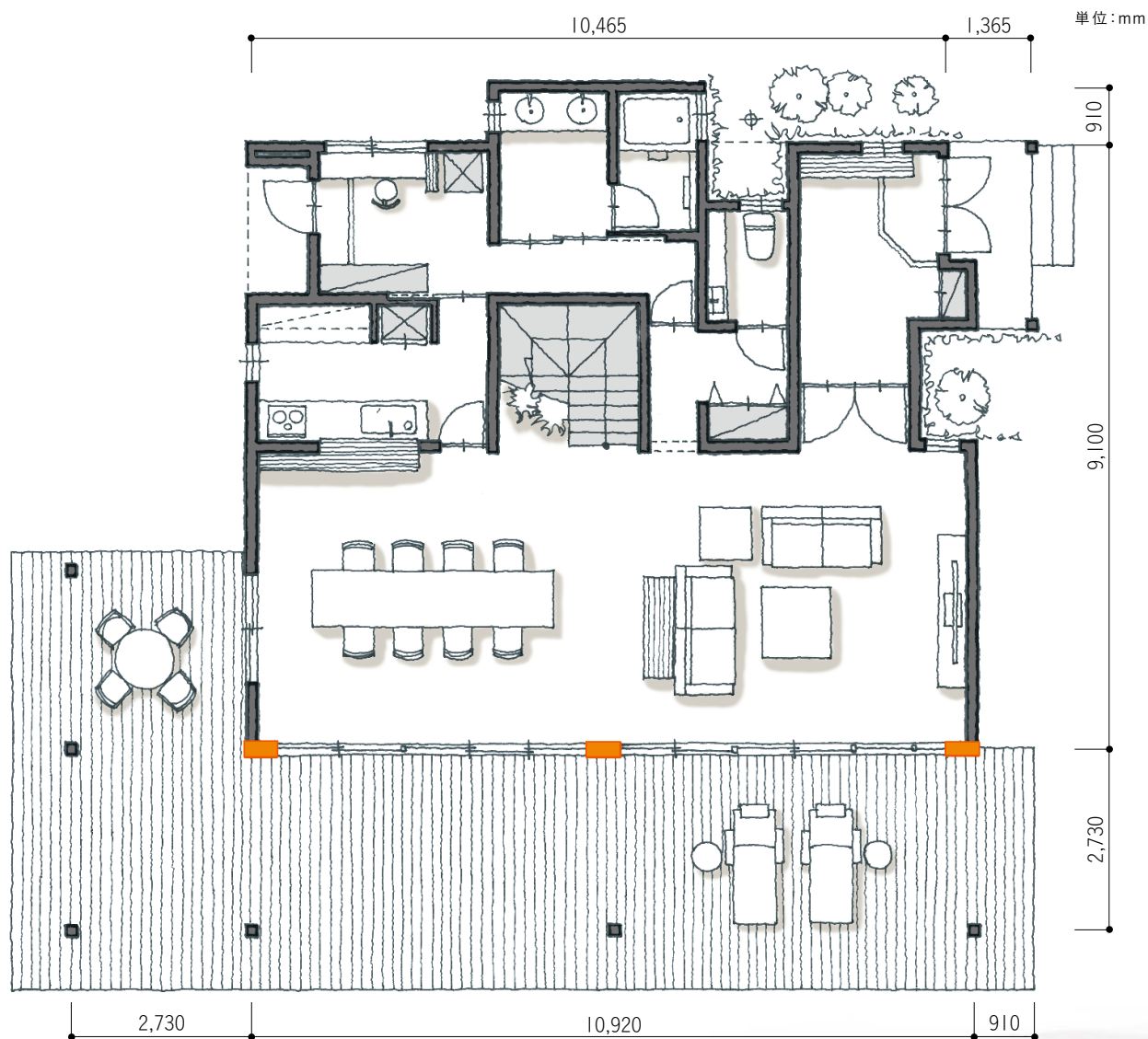
BS耐力壁は
高さ6m[※]まで可能なため、
大きな開口部を
設けることが可能。

スパンの制約が少なく、
開口部も余裕の
大きさを確保。
(スパンは梁せいによる)

450mmの壁長で
開放感のある
リビング・ダイニングを実現。



吹抜け部分に
BS耐力壁を用いることで
胴差のない大きな開口部を
設けることが可能。



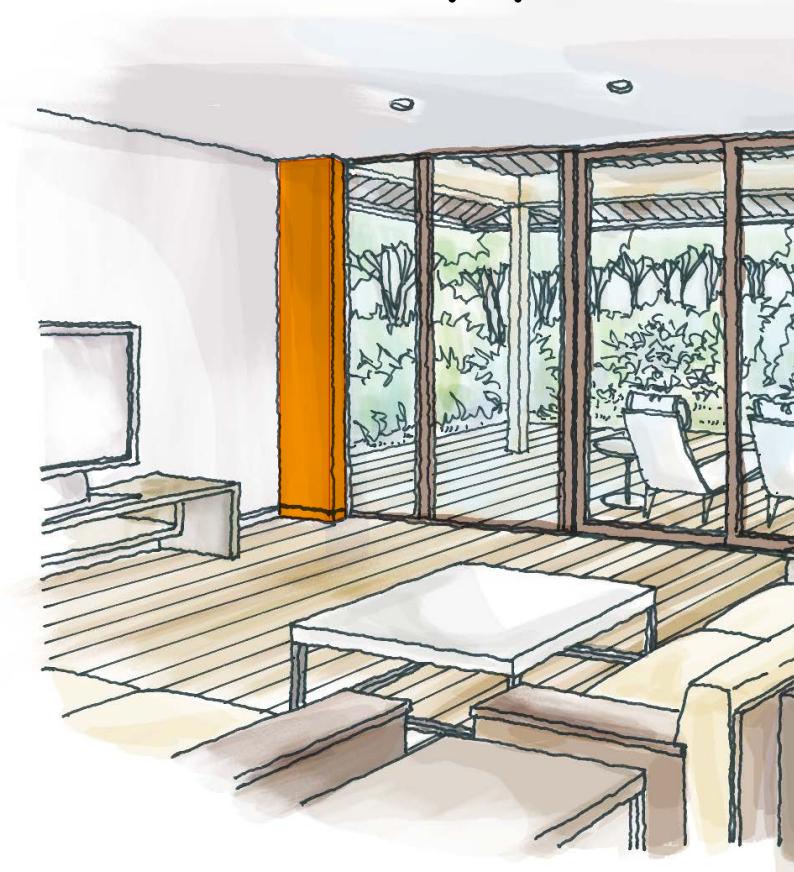
BASE-SETOR
planning

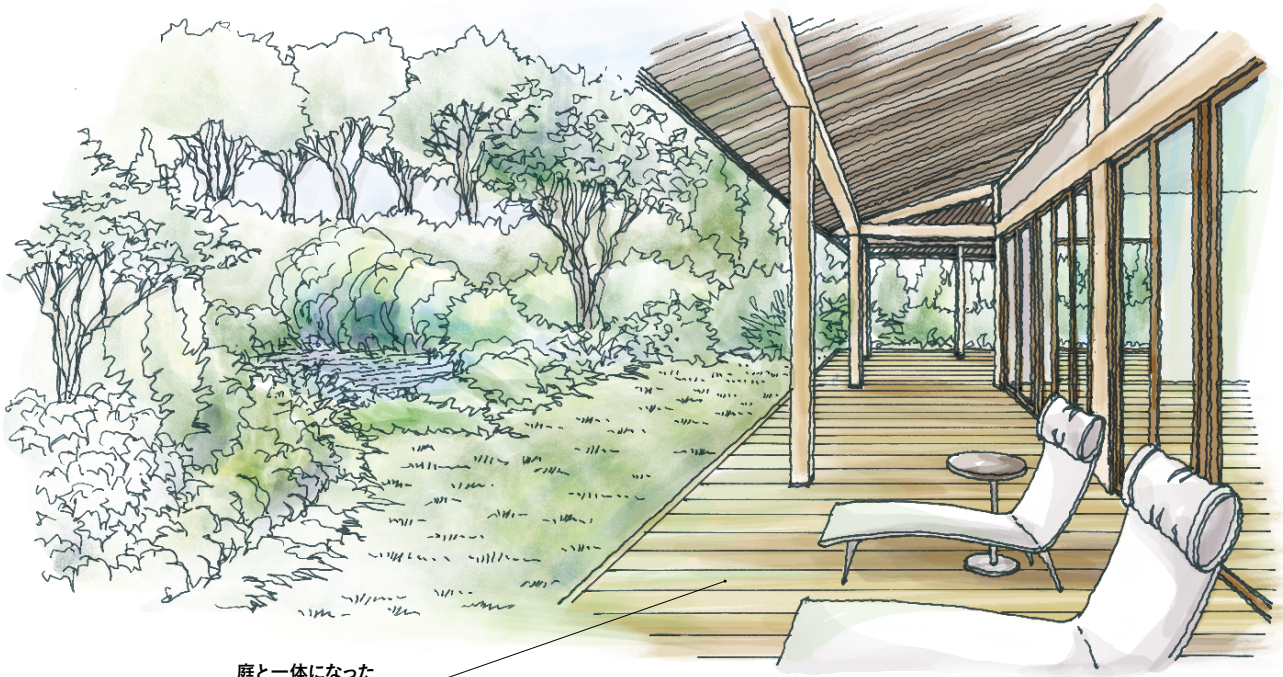
CASE

4

大きなぬれ縁のある家

外壁に3か所のBS耐力壁を配置するだけで、庭に面した大きな開口部が展開可能。室内から四季折々の景色をパノラマで楽しむことができるだけでなく、第2のリビングとなる広いぬれ縁を設けることで、庭まで一体となった豊かな空間が広がります。

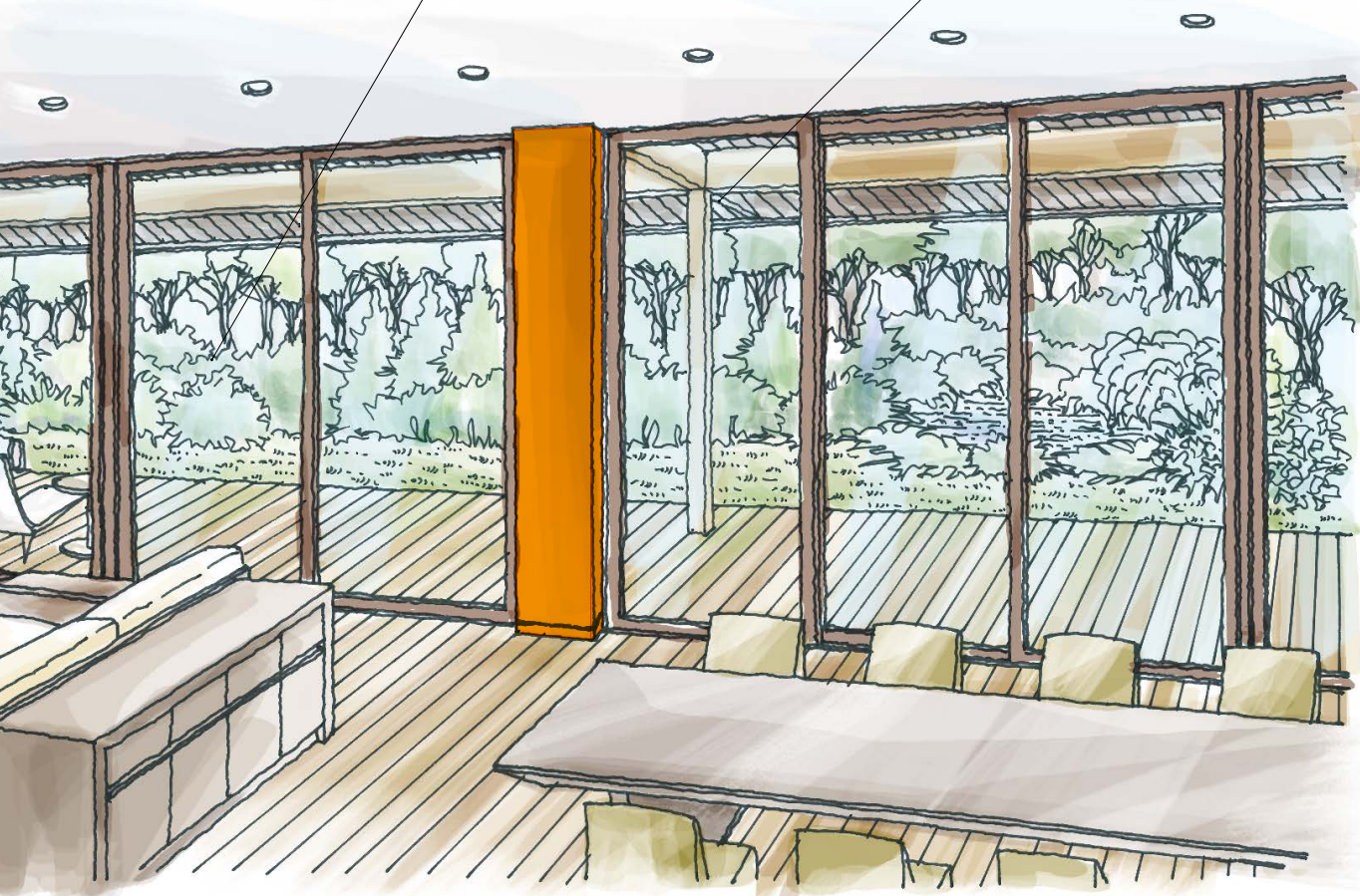




庭と一体になった
広いぬれ縁は
第2のリビングに。

大きな開口で
明るく豊かな採光を
実現。

南面の連続した開口部で
四季を感じる風景を
楽しむことができる。



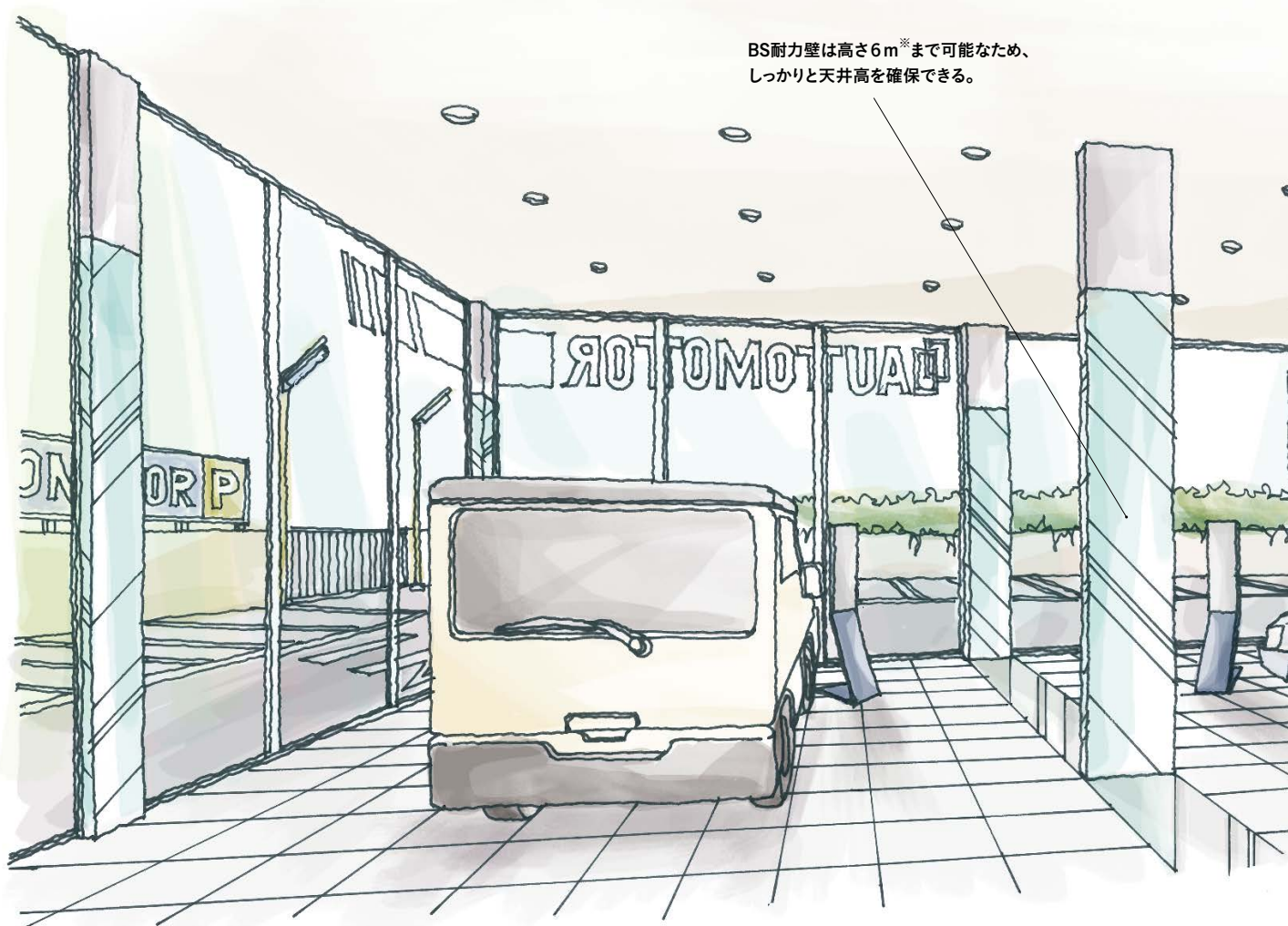
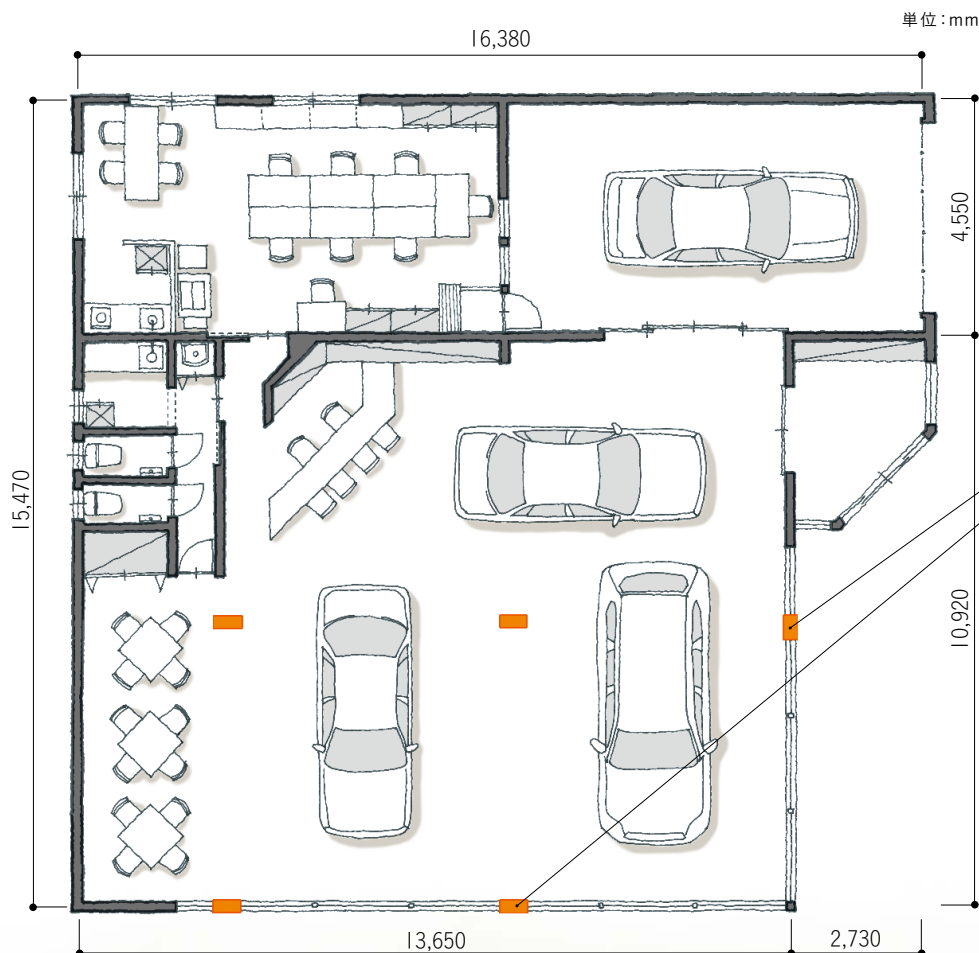
BASE-SETOR
planning
CASE

5

店舗

BS耐力壁を2方向に配置することで、L字の開口部も可能です。また、壁長450mmで高さ6m[※]まで施工可能なBS耐力壁を活用すれば、大きな開口部や高い天井の設計も容易です。開口部が広く、外から店内が見渡せる、入りやすい店づくりや、魅力的なショールームの計画に実力を発揮します。

※カラマツ集成材の場合、最大高さ5.4m。

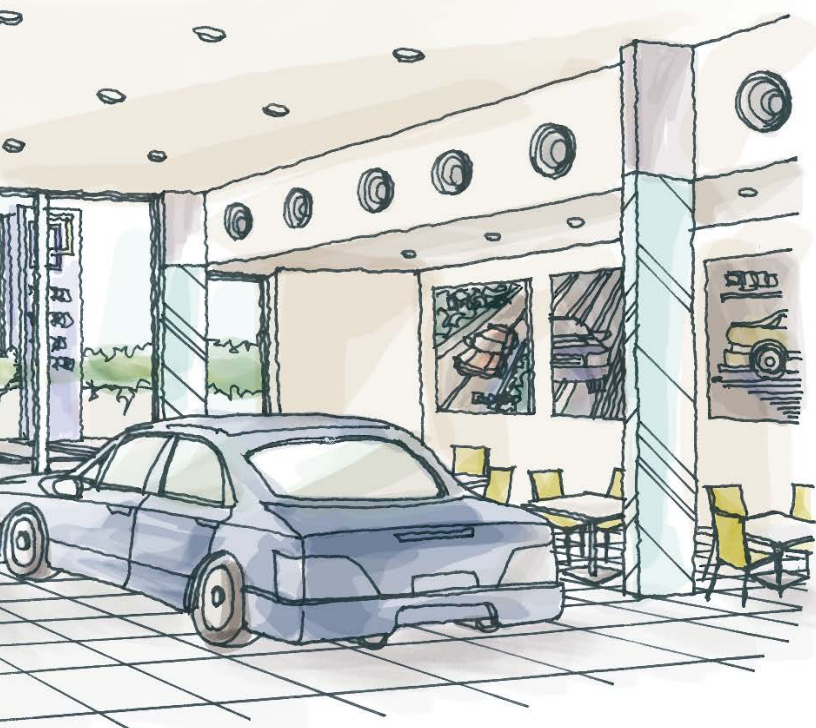


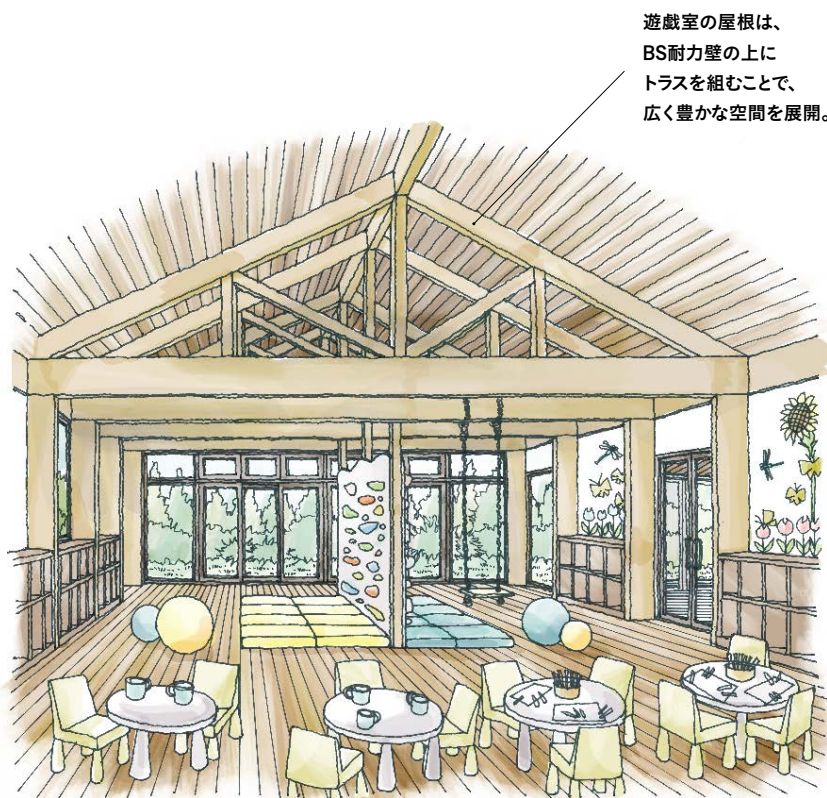
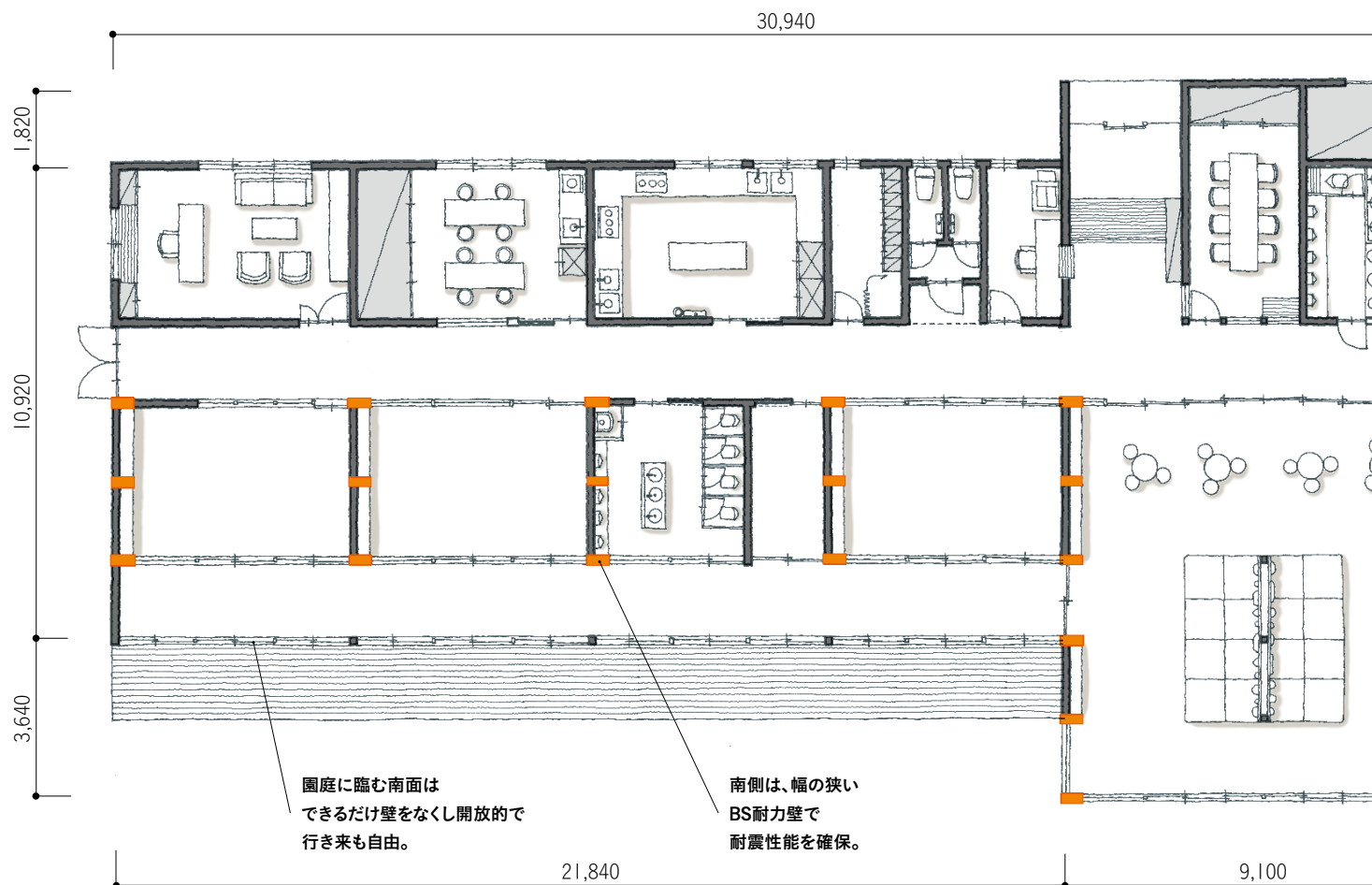
BS耐力壁は高さ6m[※]まで可能なため、しっかりと天井高を確保できる。

2方向に配置できるため、
L字の開口部も
プランニング可能。



外からも店内が見渡せる
開放的な空間を実現。





単位:mm

BASE-SETOR
planning

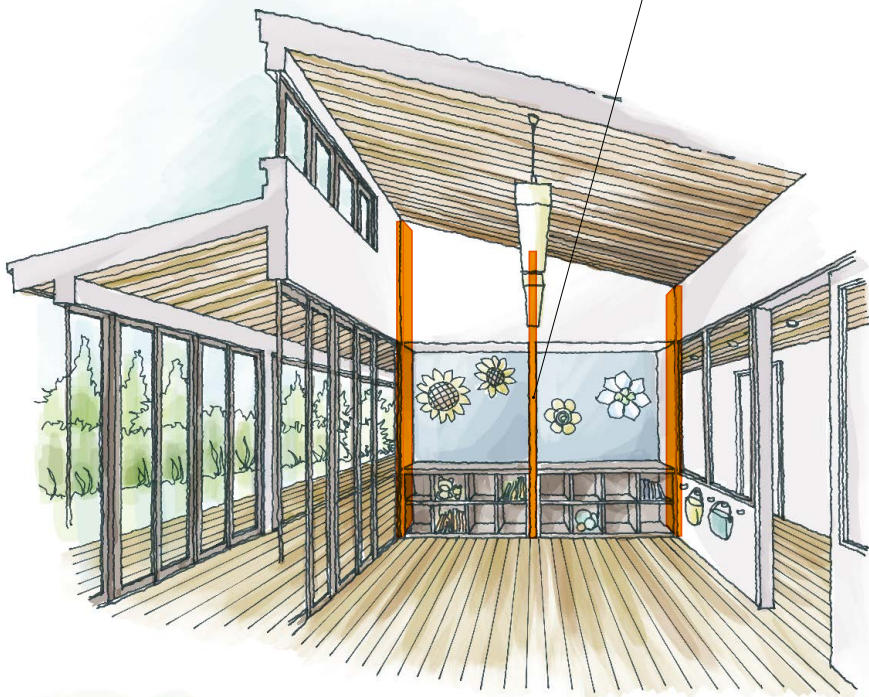
CASE

6

保育園

BS耐力壁を活用することで、保育に適したさまざまな設計プランを実現できます。たとえば、保育室と廊下の間の壁を極力減らすことで、カリキュラムに応じて保育室と廊下を一体的に活用できるプラン。ほかにも、保育室と園庭の間にたくさんの開口部を設置することで、保育室と園庭の間を気軽に行き来できるプランを展開することができます。

BS耐力壁の間のスペースを、
園児用の収納棚として有効利用。



勾配天井に合わせて
異なる高さのBS耐力壁で
設計することができる。



ベースセッターの主な設計ルール

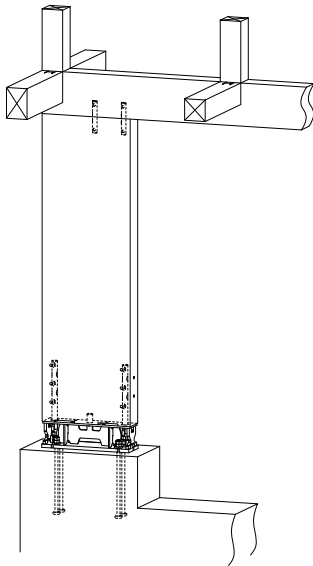
在来軸組工法 編

RULE 1

I階柱脚部でのみ使用可能

ベースセッターは、基礎に緊結する必要があるため、I階の柱脚部でのみ使用可能です。(2階以上には使用できません。)

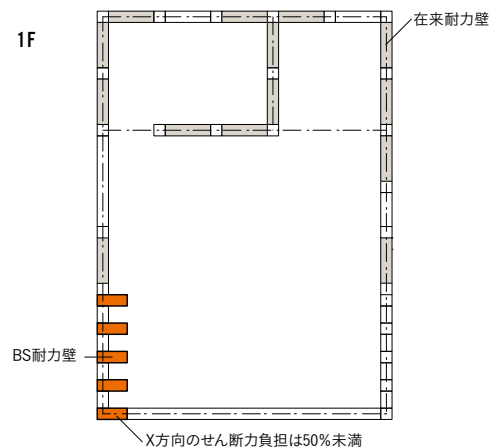
また、原則使用環境Ⅲでの使用を推奨します。(雨がかりや湿潤状態とならない環境。)



RULE 2

BS耐力壁の水平力負担は50%未満

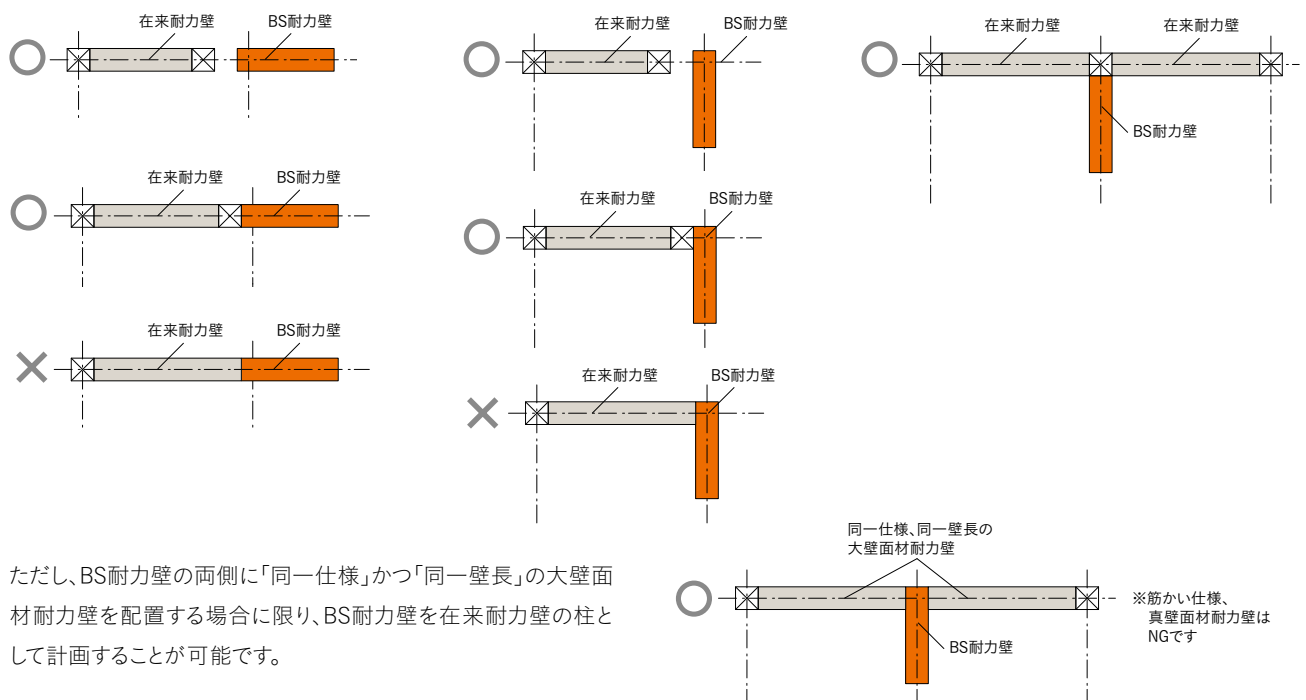
BS耐力壁は筋かいや面材耐力壁などの在来耐力壁と組み合わせて配置することが可能ですが、BS耐力壁が負担する水平力はI階の水平力の50%未満として計画してください。また、BS耐力壁と組み合わせて使用できる耐力壁は建築基準法施行令第46条、または昭和56年建設省告示第1100号で壁倍率が与えられている耐力壁と終局変形角が $1/30\text{rad}$ 以上が確認されている耐力壁です。



RULE 3

在来耐力壁の柱としては使用不可

BS耐力壁と在来耐力壁が隣接する場合は、BS耐力壁を在来耐力壁の柱として計画することは原則できません。隣接する場合は在来耐力壁を構成する柱を設けてください。



ただし、BS耐力壁の両側に「同一仕様」かつ「同一壁長」の大壁面材耐力壁を配置する場合に限り、BS耐力壁を在来耐力壁の柱として計画することが可能です。

❗ 必ずベースセッターマニュアルをお読みください。

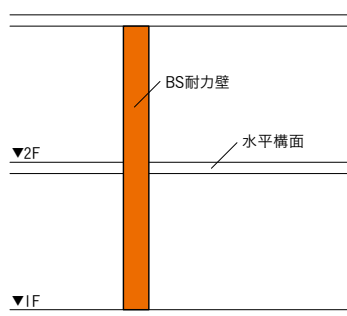
ベースセッターマニュアルはB Xカネシンホームページのユーザー専用ページよりダウンロードできます。(初回のみユーザー登録が必要です。)

①<https://www.kaneshin.co.jp/user/>へアクセス ②メールアドレス・パスワードを入力してログイン ③データダウンロードの[マニュアル・設計ツール]よりダウンロード

RULE 4

通し柱として使用不可

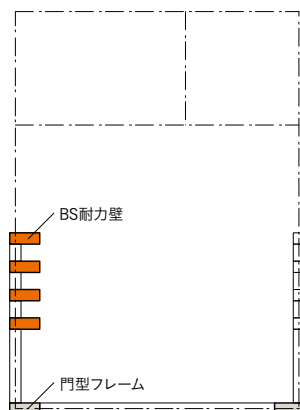
BS耐力壁は、水平構面を貫通する通し柱として使用することはできません。



RULE 5

門型フレームと併用不可

BS耐力壁は、他の門型フレームと併用して設置することはできません。



RULE 6

在来耐力壁と並列使用可能

在来耐力壁とBS耐力壁を同一壁線で使用可能です。



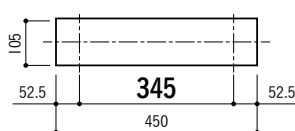
RULE 7

105角柱・120角柱の芯-芯寸法

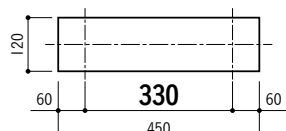
単位：mm

BS耐力壁の芯-芯寸法は、105角柱換算で345mm、120角柱換算で330mmです。

105角柱の芯-芯寸法



120角柱の芯-芯寸法

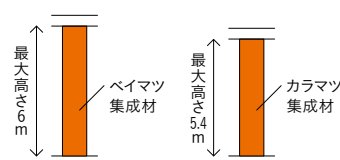


RULE 8

使用樹種による違い

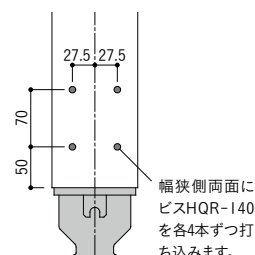
単位：mm

使用する樹種によって最大高さが異なります。また、カラマツ集成材の場合のみ、ビスHQR-I40 (Mブルー) ×8本を木材幅狭側に打ち込みます。



※カラマツ集成材の場合、最大高さ5.4m。

カラマツ集成材の場合のみ



RULE 9

許容応力度計算+検定ツールで簡単設計

構造の検証は、通常の許容応力度計算ソフト^{※1}を用いた構造計算と、各BS耐力壁については「BS耐力壁検定ツール」^{※2}を用いて行います。

構造計算の流れ

STEP1

BS耐力壁検定ツール を使用

階高、梁せい等の基本寸法を入力し、BS耐力壁の換算壁倍率を算出します。

STEP2

許容応力度計算ソフト を使用

STEP1で算出した換算壁倍率を入力し、耐力壁の充足、偏芯率などの確認、軸力と分担水平力を算出します。

STEP3

BS耐力壁検定ツール を使用

STEP2で算出した軸力、分担水平力を入力し、設計用許容せん断耐力の算出、部材の検定等を行います。NGがなければ検定終了です。

※1 「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」に準拠した構造計算ソフトをご使用ください。

※2 検定ツールは、B Xカネシンホームページのユーザー専用ページよりダウンロードできます。(初回のみユーザー登録が必要です。)

①<https://www.kaneshin.co.jp/user/>へアクセス ②メールアドレス・パスワードを入力してログイン ③データダウンロードの[マニュアル・設計ツール]よりダウンロード

ベースセッターの主な設計ルール

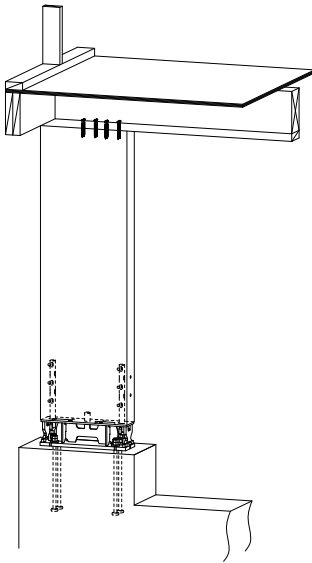
枠組壁工法 編

RULE 1

I階柱脚部でのみ使用可能

ベースセッターは、基礎に緊結する必要があるため、I階の柱脚部でのみ使用可能です。(2階以上には使用できません。)

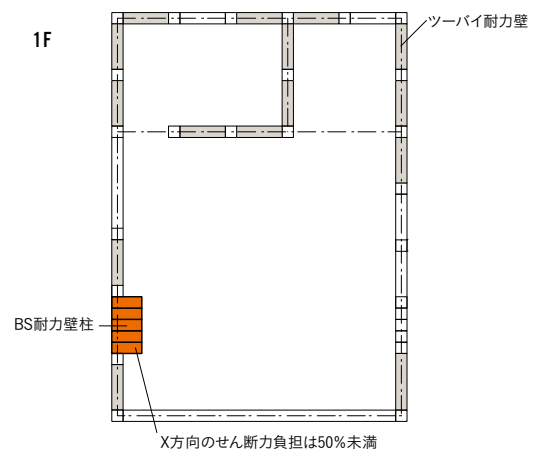
また、原則使用環境Ⅲでの使用を推奨します。(雨がかりや湿潤状態とならない環境。)



RULE 2

BS耐力壁柱の水平力負担は50%未満

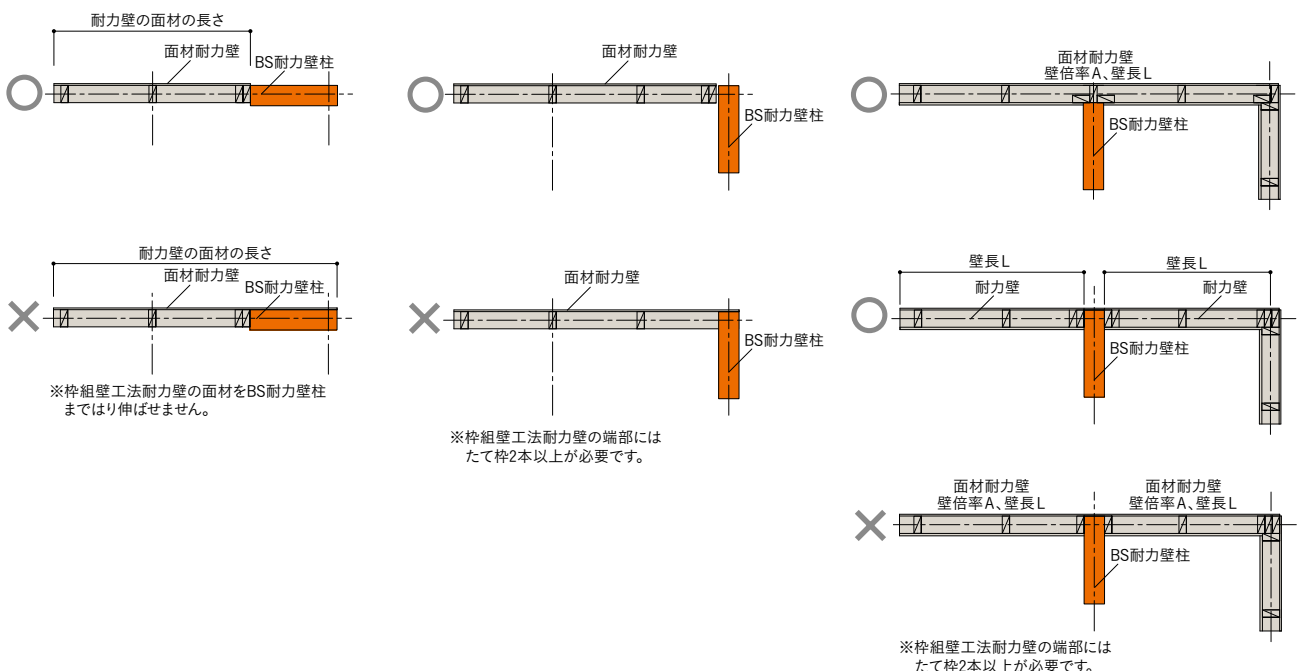
BS耐力壁柱は面材耐力壁などのツーバイ耐力壁と組み合わせて配置することが可能ですが、BS耐力壁柱が負担する水平力はI階の水平力の50%未満として計画してください。また、BS耐力壁柱と組み合わせて使用できる耐力壁は、平成13年国土交通省告示第1541号で壁倍率が与えられている耐力壁と終局変形角が1/30rad以上が確認されている耐力壁です。



RULE 3

ツーバイ耐力壁の柱としては使用不可

BS耐力壁柱とツーバイ耐力壁が隣接する場合は、BS耐力壁柱をツーバイ耐力壁の柱として計画することは原則できません。隣接する場合はツーバイ耐力壁を構成する柱を設けてください。



❗ 必ず2×4用ベースセッターマニュアルをお読みください。

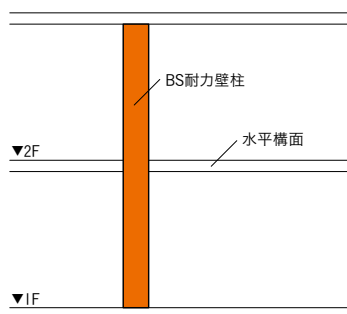
2×4用ベースセッターマニュアルはB Xカネシンホームページのユーザー専用ページよりダウンロードできます。(初回のみユーザー登録が必要です。)

①<https://www.kaneshin.co.jp/user/>へアクセス ②メールアドレス・パスワードを入力してログイン ③データダウンロードの[マニュアル・設計ツール]よりダウンロード

RULE 4

通し柱として使用不可

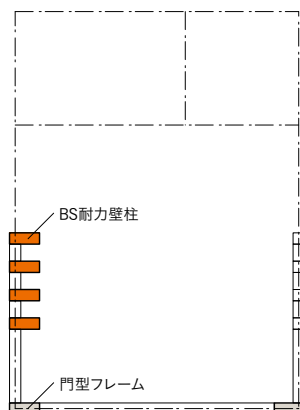
BS耐力壁柱は、水平構面を貫通する通し
たて枠として使用することはできません。



RULE 5

門型フレームと併用不可

BS耐力壁柱は、他の門型フレームと併用
して設置することはできません。



RULE 6

ツーバイ耐力壁と並列使用可能

ツーバイ耐力壁とBS耐力壁柱を同一壁
線で使用可能です。

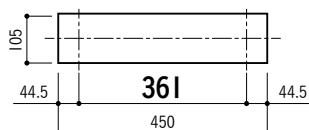


RULE 7

基準たて枠寸法(厚さ)が204の芯-芯寸法

単位: mm

BS耐力壁柱の芯-芯寸法は、361mmです。

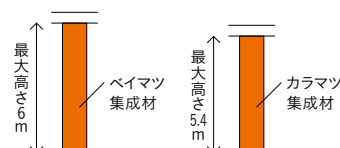


RULE 8

使用樹種による違い

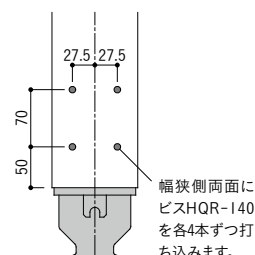
単位: mm

使用する樹種によって最大高さが異なります。また、カラマツ集成材の場合のみ、ビスHQR-I40 (Mブルー)×8本を木材幅狭側に打ち込みます。



※カラマツ集成材の場合、最大高さ5.4m。

カラマツ集成材の場合のみ



幅狭側両面に
ビスHQR-I40
を各4本ずつ打
ち込みます。

RULE 9

許容応力度計算+検定ツールで簡単設計

構造の検証は、通常の許容応力度計算ソフト^{※1}を用いた構造計算と、
各BS耐力壁柱については「2×4用BS耐力壁柱検定ツール」^{※2}を用いて行います。

構造計算の流れ

STEP1

2×4用BS耐力壁柱検定ツール を使用

階高、梁せい等の基本寸法を入力し、BS耐力壁柱の換算壁倍率を算出します。

STEP2

許容応力度計算ソフト を使用

STEP1で算出した換算壁倍率を入力し、耐力壁の充足、偏芯率などの確認、軸力と分担水平力を算出します。

STEP3

2×4用BS耐力壁柱検定ツール を使用

STEP2で算出した軸力、分担水平力を入力し、設計用許容せん断耐力の算出、部材の検定等を行います。NGがなければ検定終了です。

※1 「枠組壁工法建築物構造計算指針」に準拠した構造計算ソフトをご使用ください。

※2 2×4用BS耐力壁柱検定ツールは、B Xカネシンホームページのユーザー専用ページよりダウンロードできます。(初回のみユーザー登録が必要です。)

①<https://www.kaneshin.co.jp/user/>へアクセス ②メールアドレス・パスワードを入力してログイン ③データダウンロードの[マニュアル・設計ツール]よりダウンロード

ベースセッターの主な設計ルール

基礎 編 (共通)

地中梁の設計

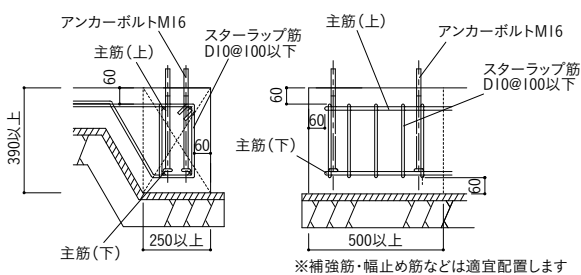
BS耐力壁の基礎は大きな反力を処理する必要があるため、高い応力への抵抗力が求められます。

そのため、ベースセッターのアンカーボルト周辺の基礎はスターラップ筋・フープ筋などを閉鎖型に配筋し、アンカーボルト周辺のコンクリートを拘束する必要があります。

※基礎については、設計者が下記の参考例を踏まえて、適切に設計してください。(状況に応じて、補強筋・幅止め筋を配置してください。)

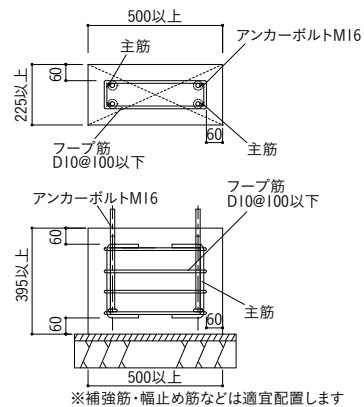
スターラップ筋仕様 参考例

単位: mm



フープ筋仕様 参考例

単位: mm



アンカーボルト

アンカーボルトは高耐力フレックスアンカーボルト (ベースセッター用・ダブルナット) を使用してください。

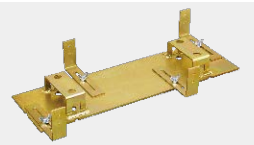
仕様条件

コンクリート埋め込み深さ (mm)	300以上*
コンクリート幅 (mm)	225以上
コンクリート設計基準強度 (N/mm ²)	$F_c=21$ 以上

※アンカー笠下からの長さ

ベースセッター用 アンカー治具 (別売品)

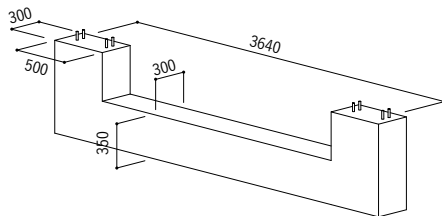
アンカーボルトの施工精度が向上します。



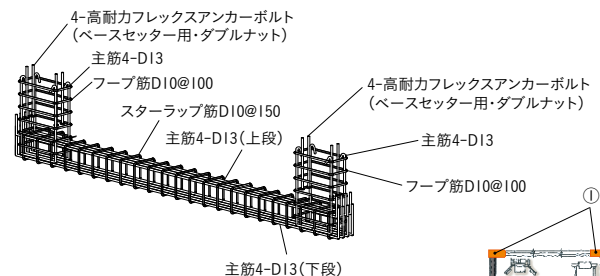
プランニング事例 CASE1 (P.8~9) の場合 ※基礎寸法、配筋は参考例です。実際の設計においては、設計者の判断で設計してください。 単位: mm

① 1壁単独

地中梁コンクリート寸法 (参考例)

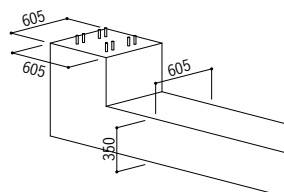


地中梁配筋 (参考例)

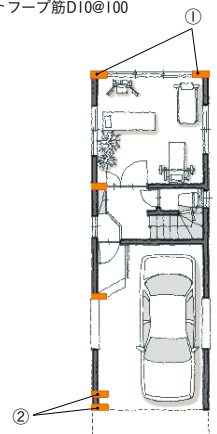
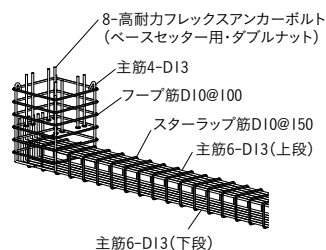


② 2壁並列

地中梁コンクリート寸法 (参考例)



地中梁配筋 (参考例)



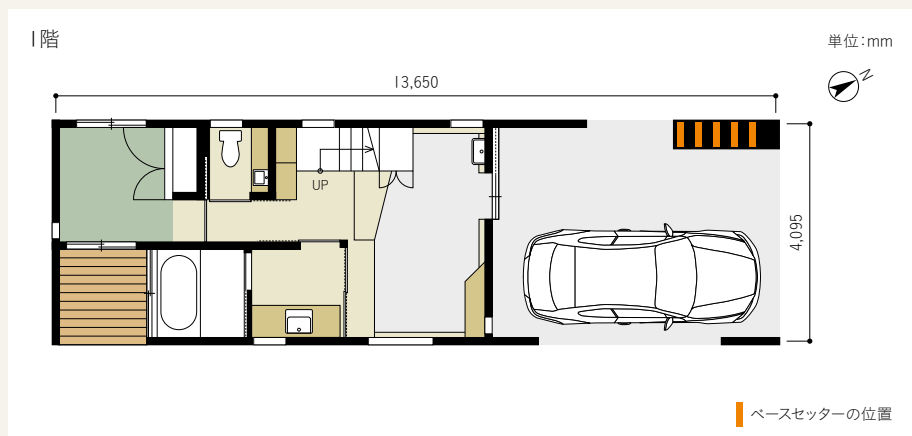
ベースセッター採用事例①



在来軸組工法 住宅

間口5mの細長い狭小地に建つ木造3階建て・耐震等級3の家

北側が道路に接し、三方を住宅に囲まれた、間口5m・奥行き15mの細長い敷地に建つ耐震等級3の木造3階建て住宅です。ベースセッターを車庫の片側に5壁集めて配置し、駐車スペースと玄関へのアプローチを確保しています。圧迫感もなくすっきりと納まっています。



物件概要

物件名	荒川の家Ⅲ様邸
カテゴリ	住宅
建設地	東京都荒川区
延べ床面積	143.67㎡
工法	在来軸組工法 3階建て
ベースセッター 使用数	5壁
ベースセッター 使用場所	車庫

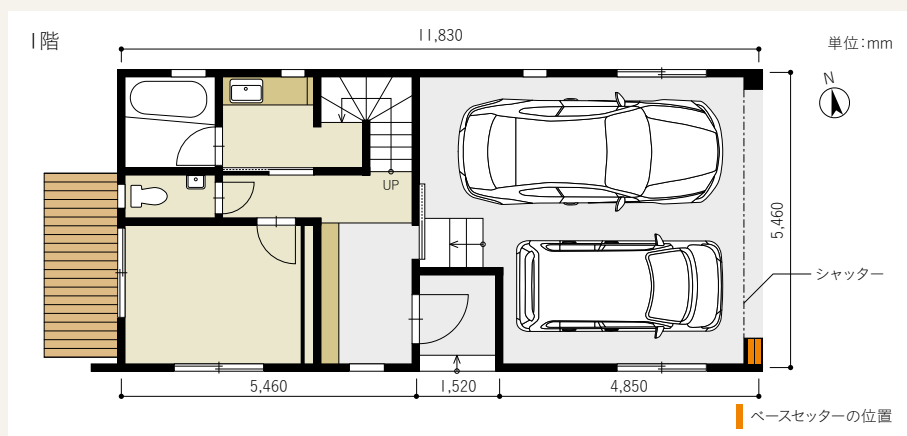
ベースセッターの採用事例②



枠組壁工法 住宅

枠組壁工法で大開口実現

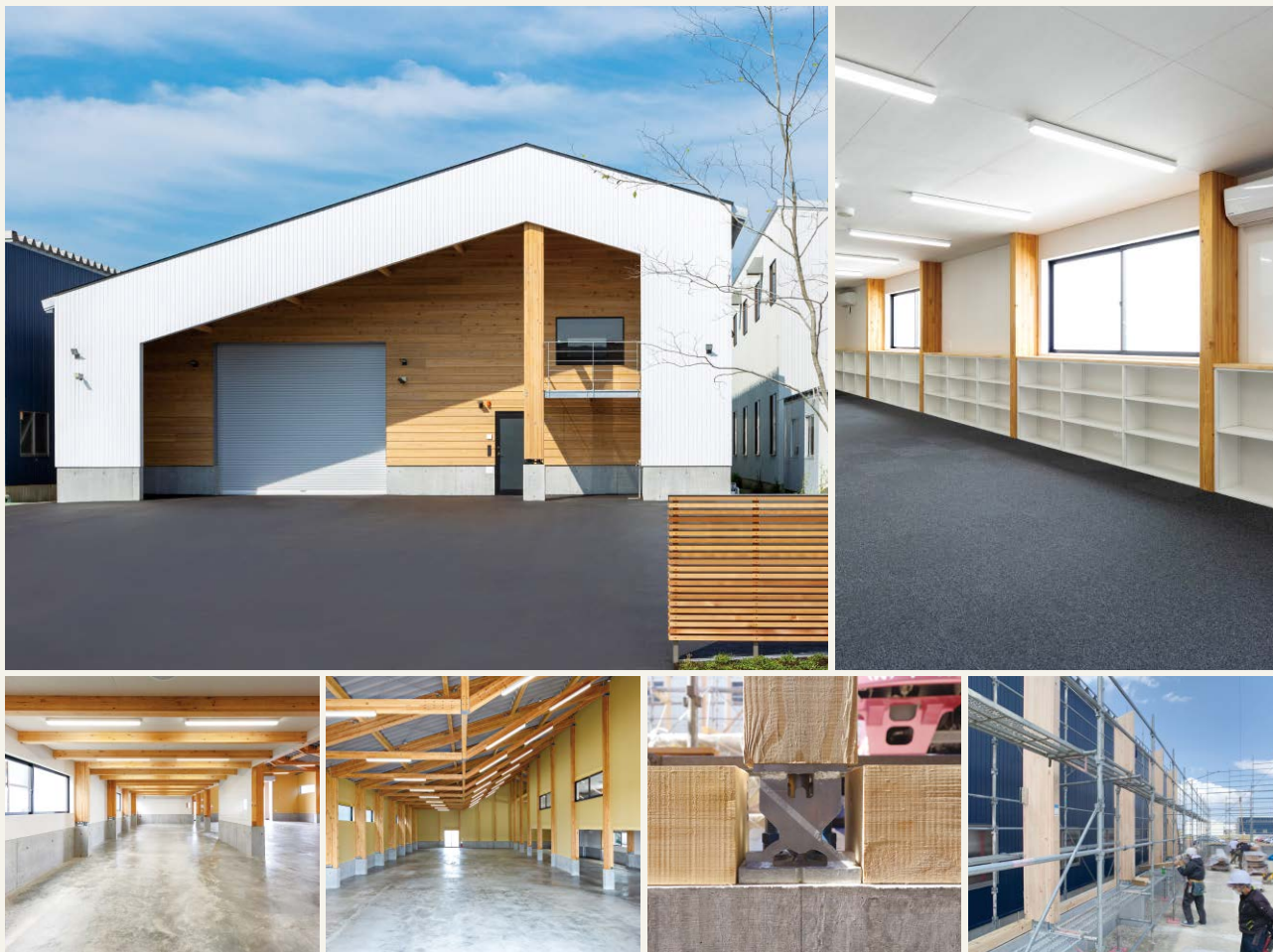
枠組壁工法でベースセッターを使用しています。建物間口が5,460mmに対し、有効開口4,900mmを実現することで、自動車の2台並列駐車が可能です。ベースセッターを使用した耐力壁（BS耐力壁）にはシャッターの取り付け枠を設けています。



物件概要

物件名	U展示場
カテゴリ	住宅
建設地	山形県米沢市
延べ床面積	126.41㎡
工法	枠組壁工法 2階建て
ベースセッター 使用数	2壁
ベースセッター 使用場所	車庫

ベースセッターの採用事例③



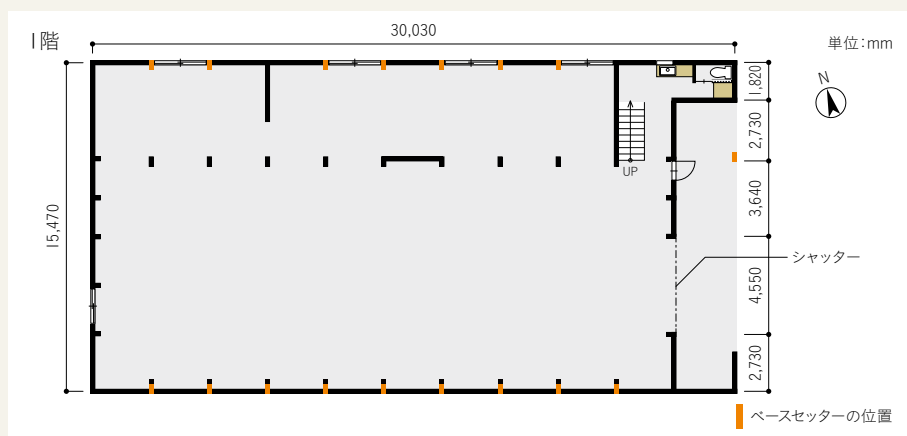
在来軸組工法

倉庫

ベースセッターと大型パネルを使用した中規模木造建築

大型パネル、ベースセッター、トラスを組み合わせて建設された倉庫です。建物の1/3を2階建て（事務所）とし、他は1階から吹き抜けを有する倉庫としています。ベースセッターを使用した耐力壁（BS耐力壁）を建物外周部に17壁配置し、最大スパン約11mを実現。内部は壁が少ない機能的なプランです。

※設計者判断により、一部ベースセッターの設計ルール外の仕様となっています。



物件概要

物件名	株式会社OS様 倉庫兼事務所
カテゴリ	倉庫兼事務所
建設地	新潟県燕市
延べ床面積	514.57㎡
工法	金物工法 2階建て
ベースセッター 使用数	17壁
ベースセッター 使用場所	倉庫



BX GROUP

BXカネシン株式会社

本社 〒124-0022 東京都葛飾区奥戸4-19-12

お問合せ

営業本部

TEL 0120-106781 FAX 0120-677010 (通話料無料)

携帯電話からはこちら TEL 03-3696-6781 技術的なお問合せ TEL 03-5671-1077

事業所



●事業所一覧

<https://www.kaneshin.co.jp/>

取扱店

- 2023年10月発行
- このパンフレットに記載された仕様は、改良のため予告なしに変更することがあります。